

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇北小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	学習者用端末を日常的に活用する環境を整え、ドリルパークなどを効果的に取り入れながら、児童の基礎学力の向上につなげていく。
思考・判断・表現	オクリンクやムーブノートだけでなく、Canvaの活用方法について教職員による研修を推進し、児童の思考力や表現力を高める授業を展開する。
主体的に学習に取り組む態度	引き続き、導入や学習課題を工夫するとともに、一人ひとりにきめ細かな学習支援を行い、主体的に学ぶ児童を育成していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」を3pt向上させる。	⇒ ・スタディサプリや、ドリルパークを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	・国語・算数とも、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「思考・判断・表現」を3pt向上させる。また、平均無解答率を1割下げる。	⇒ ・算数では、デジタル教科書を活用し、図や表の編集を視覚的に見せる。また、オクリンクやムーブノートを活用し、児童が自ら図や表の編集に取り組むようにする。 ・国語では、モデル文を活用した授業により、児童の表現力を向上させる。また、朝読書を継続し、思考力の向上を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「国語が好き」、「算数が好き」という設問に対し、肯定的な回答を5pt向上させる。	⇒ ・算数の授業では、児童とともに課題を設定し、自力解決の時間を確保し、児童の言葉でまとめられるようにする。 ・国語では、各単元において魅力的な学習課題を設定し、児童が意欲的に学習に取り組むようにする。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	目標値を達成させることはできなかったが、ICTを日常的に活用し、スタディサプリやドリルパークなどにより、児童の基礎学力の向上に努めた。さいたま市学習状況調査において、前年度と比較してマイナスとなった学年については、さらなる手だてが必要だと感じている。	B
思考・判断・表現	目標値を達成させることはできなかったが、学習者用端末を効果的に活用し、デジタル教科書やオクリンク、ムーブノートなどにより、表現力を高めることができた。さいたま市学習状況調査において、前年度と比較してマイナスとなった学年については、さらなる手だてが必要だと感じている。	B
主体的に学習に取り組む態度	学習の導入や課題設定を工夫し、児童が生き生きと学ぶことができる授業が展開できるよう努めた。さいたま市学習状況調査において、「国語が好き」や「算数が好き」の項目が前年度より下回る結果となった学年もあるため、今後も児童が意欲的に学習活動に取り組むことができるよう検討を進めていく。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2pt、算数-1ptであった。国語の情報と情報の関係や敬語の理解に課題がみられた。算数では、台形の特徴やグラフ、表の読み取りがよくできていた。一の位に0のある乗法や三角形の性質の理解に課題がみられた。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+5pt、算数-3ptであった。国語の「話す・聞くこと」について前年度より正答率は高かったが、平均無解答率が0.8pt高いことから二極化していることが考えられる。算数の式を場面と関連付けて読み取ったり、日常生活の場面を想定した問題に取り組んだりすることに課題がある。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「国語が好き」「算数が好き」の質問項目の、肯定的な回答の割合が、60%に達しなかった。導入の工夫や魅力的な学習課題の設定を積み重ね、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2.3pt、算数-1.4ptとなったが、算数の「思考・判断・表現」においては、+0.2ptとなった。さいたま市平均と比較し、「国語が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が-2.9pt、「算数が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が-2.1ptとなり、課題が感じられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査の国語「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、+1.6ptとなった。算数「思考・判断・表現」においては、+0.5ptとなった。さいたま市平均と比較し、「国語が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が-4.3pt、「算数が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が±0ptとなり、課題が感じられた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+0.8pt、算数-3pt、社会+1pt、理科+1.8ptとなり、3教科において前年度を上回ることができた。さいたま市平均と比較し、「国語が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が-1.7pt、「算数が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が+8.9ptとなり、特に算数において児童の意欲を喚起する学習を展開することができた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語は±0pt、算数は-1.7pt、社会は-1.8pt、理科は-1.2ptとなった。さいたま市平均と比較し、「国語が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が+3.4pt、「算数が好き」という質問に肯定的な回答をした割合が-4.3ptとなり、課題が感じられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	・国語・算数とも、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「思考・判断・表現」を2pt向上させる。また、平均無解答率を2pt下げる。	⇒ 算数では、アプリケーション等を活用し、児童が自ら図や表の編集に取り組むようにする。また、日常生活での活用場面を取り入れた問題を積極的に設定し、取り組むようにする。国語では、文の構成について説明文や書く活動を中心に、意識的に取り上げるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「国語が好き」、「算数が好き」という設問に対し、肯定的な回答を2pt向上させる。	⇒ 国語では、各単元において魅力的な学習課題を設定し、身に付けたことを活用する場面を大切にする。算数では、必要感をもたせた課題を設定し、自力解決の時間を確保し、児童の言葉でまとめるようにする。